

全市立小学校等340校で 未利用魚を使用した給食を実施します



このたび、横浜市中央卸売市場魚食普及推進協議会（以下「協議会」という（※1））、横浜市教育委員会、及びよこはま学校食育財団が連携し、魚食普及、SDGs、フードロス解消の観点から全横浜市内立小学校等340校を対象に、「未利用魚」（※2）を活用した給食（基準献立（※3））を実施し、子どもたちに魚食の大切さや、漁業の現状を学んでもらう機会を提供します。

併せて、動画を活用した食に関する学習を実施します。 ※注釈は裏面記載

■未利用魚を活用した給食（基準献立）の実施について

- 実施校数：全市立小学校等340校
- 給食数：約20万食
- 未利用魚使用のメニュー：さばのみぞれあんかけ
（神奈川県内産の未利用魚を使用）

当日献立：麦ごはん 牛乳 さばのみぞれあんかけ
 けんちん汁 焼きのり

- 実施日：第1回 2月14日（月） 第2回 2月21日（月）
 第3回 2月25日（金） 第4回 2月28日（月）
 （エリア別に4回に分けて実施）



給食イメージ

■動画を活用した食に関する学習について

未利用魚をとおして水産業の現状などの理解を深めてもらうため、今回の給食に合わせて新たに協議会が中心となり動画を制作しました。各学校にて、給食実施に合わせた事前の視聴や、今後の総合的な学習の時間、社会科の授業での活用などにより、食に関する学習を実施します。

【動画の概要】

- タイトル：「おしえて未利用魚 ～もったいないを考えよう～」
- 時間：約8分
- 内容：
 - ・魚の流通の仕組み
 - ・未利用魚について
 - ・漁業の現状について
 - ・市場での取組について
 - ・未利用魚の給食について
 - ・市場関係者や学校の栄養士のインタビューなど



動画は、横浜魚市場卸協同組合（※4）ホームページで公開しています。

【ホームページ】 <https://www.hamaoroshi.or.jp/>

【二次元コード】



動画シーンの一部

裏面あり

【参考】

これまでも協議会では、市場が立地する神奈川区や近隣の西区・中区の市立小学校と連携して、各学校で独自に献立を作成し実施する給食（独自献立）に「未利用魚」を活用してきました。

また、給食に合わせて、市場事業者が学校に出向き授業を行い魚食普及の取組を行ってきました。

【独自献立実施概要】

年度	校数 (延べ数)	食数	使用魚種	出前授業実施校数
平成 30 年度	12 校	7,155 食	サバ・イワシ	2 校
令和元年度	36 校	24,822 食	サバ・イワシ	7 校
令和 2 年度	10 校	6,065 食	サバ	1 校 (リモート)
令和 3 年度	12 校	6,524 食	サバ	新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため自粛
合計	70 校	44,566 食	サバ・イワシ	10 校

- (※1) 市場水産物部の卸売業者 2 社、仲卸業者等の団体で構成しており、魚食の普及・拡大及び消費促進を目的として活動している団体で、市場開放や魚を用いた料理教室、児童向けの学校への出前授業などの活動を行っています。
- (※2) 水産物の流通過程において魚体のサイズが不揃いであったり、漁獲量が少なくロットがまとまらなかったりなどの理由から、非食用に回されたり、低い価格でしか評価されない魚のことです。
- (※3) 横浜市立小学校等を対象とした全市統一の献立です。
- (※4) 水産物を取り扱う仲卸業者として構成員の相互補助、経済的地位の向上を図ることを目的に設立された事業協同組合です。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校での取材の受け入れは行いませんが、給食時の写真などを 2 月 14 日（月）以降に提供を予定しております。

写真の提供を希望される場合は、経済局中央卸売市場本場経営支援課（045-459-3337）あてにご連絡ください。

※本件は、横浜経済記者クラブへも同時発表しています。

お問合せ先
【未利用魚、動画に関すること】 経済局中央卸売市場本場経営支援課長 藤咲 貴裕 Tel 045-459-3331
【給食、食に関する学習に関すること】 教育委員会事務局健康教育・食育課担当課長 木村 直弘 Tel 045-671-3687